

 職業指導

Vocational Guidance

IMAI Fumitoshi

今井 文俊

## ■授業の目的

本授業は、企業経営の側面から捉えた職業指導の歴史や理論を考察し、今日に至るキャリア教育の在り方、労働環境の現状や諸問題の理解を深め、商業科教員として役立つ体系的な知識の修得を目的とする。

## ■授業の到達目標

本授業は、科学的理論に基づく専門的知識を活かすとともに、労働環境の現状と諸問題を把握し、商業科教員としての確かな職業指導をする際の実践的指導力を身に付けることを到達目標とする。

## ■授業計画

## 〔前期〕

- 1 商業高校の進路状況と我が国の職業指導の歴史(1)  
商業科と普通科を対比して、就職率の推移を考察する。また、我が国の職業指導がどのような経緯で誕生したのかを20世紀初頭に遡り学修し、職業紹介が果たす役割を考察する。
- 2 我が国の職業指導の歴史(2)  
明治末期から昭和初期の工場での労働環境に着目し、改めて公営の職業紹介所設立の意義について学修する。また、戦前・戦中の労働環境について学修する。
- 3 アメリカの職業指導の歴史  
20世紀初頭、アメリカ社会において、職業指導がどのような経緯から誕生し、発展していったのか、職業指導の父と称されるフランク・パーソンスの理論を基に時系列で学修する。
- 4 職業指導にまつわる様々な理論(1)  
職業選択や適応を長期にわたるプロセスとして理解しようとするキングスバークの理論や、現在のキャリア教育の理論的な基礎となっているスーパーの理論を学修する。
- 5 職業指導にまつわる様々な理論(2)  
クランボルトのブランドハップンスタンス理論とフロイトの精神分析理論、アドラー心理学、ユング心理学を学修することで、それぞれの理論の立場から働くことの意味について考察する。
- 6 職業指導にまつわる様々な理論(3)  
ローの早期決定論やボードインの精神分析的理論、職業レディネステストとホランドの職業選択理論との関係を学修し、結果の活用について考察する。
- 7 職業指導にまつわる様々な理論(4)  
ジェラットの意思決定理論、社会的構造理論であるプロンフェンブレナーやバンデューラの理論について学修する。
- 8 企業経営の側面から見た職業指導の在り方(1)  
テラーの科学的管理法について学修する。なお、その際に経営と労働の意味を効率性をキーワードに考察し、科学的管理法の持つ当時の先進性と問題点を明らかにする。
- 9 企業経営の側面から見た職業指導の在り方(2)  
フォードシステムとは何か、20世紀初頭のアメリカにおける自動車の普及とT型フォードの販売の躍進、凋落を時系列で学修する。
- 10 企業経営の側面から見た職業指導の在り方(3)  
フアヨールの経営管理論における管理原則を学修し、テラーとの相違点を考察する。
- 11 企業経営の側面から見た職業指導の在り方(4)  
メイヨ어의ミューロン紡績部門の調査やホーソン実験について概要を理解し、その疑問点と結論について学修する。
- 12 企業経営の側面から見た職業指導の在り方(5)  
メイヨ어의ホーソン実験について学修し、テラーとの相違点を考察する。
- 13 企業経営の側面から見た職業指導の在り方(6)  
マズローの欲求の段階説、マクレガーのX理論・Y理論について学修する。
- 14 企業経営の側面から見た職業指導の在り方(7)  
ホーソン実験での矛盾の解決に努めたリッカーの実験や、ハーズバークの動機づけ-衛生理論について学修する。
- 15 試験、まとめ  
職業指導の歴史や、まつわる様々な理論、企業経営の側面から見た職業指導の在り方について試験を行い、解答例を示して全体的な概要説明をし、前期の講義内容を振り返る。

## ■授業の方法

本授業は、知識として伝えるべき内容については講義形式をとるが、その際でも質問を通じて受講生に意見を求め、双方向の授業展開をする。また、講義の最後には振り返りの時間を設け、学んだことを整理してもらう。

## ■予習・復習

予習は、学習内容の理解を深められるよう事前に配布した資料や参考書を読み、重要箇所をマークするなどの準備をしてほしい。復習は、毎回の講義の要旨をまとめてほしい。なお、知識を定着させ、掘り下げるためのレポートを課す。

## ■成績評価の方法

成績評価は学期試験60%、レポート20%、授業貢献度20%の割合で評価する。なお、授業貢献度には、振り返りシートの提出を含める。学期試験のフィードバックは、試験終了後の授業を通して行う。

## ■教科書・参考書

参考書：「キャリア・コンサルティング 理論と実際 4訂版」木村 周 一般社団法人雇用問題研究会（2016）、「高等学校キャリア教育の手引き」文部科学省（2011）、「労働経済白書」厚生労働省（2018）ほか

## ■関連する科目

本講座は、商業科教員免許状取得のための必修科目である。他の教職課程の科目同様、確かな修得が望まれる。

## 〔後期〕

- 1 キャリア教育(1)  
情報化・グローバル化・少子高齢化などキャリア教育が必要になった背景を理解し、学校から社会への移行をめぐる課題について学修する。
- 2 キャリア教育(2)  
子どもたちの生活・意識の変容や学校に求められている姿を考察した後、キャリア教育の定義をスーパーの理論と結び付けて学修する。
- 3 キャリア教育(3)  
小中高のキャリア発達段階で、どのようなキャリア教育が必要となるのか、育成すべき力である「基礎的・汎用的能力」の具体例を挙げて考察し、キャリア教育の意義を学修する。
- 4 キャリア教育(4)  
高校現場の進路実現に向けた取り組みを考察することで、これらが「基礎的・汎用的能力」の向上にどのような結びつきがあるかを学修する。
- 5 キャリア教育(5)  
キャリア教育に期待されることは何か、PISA型学力の視点などから考察する。また、キャリア教育に関するアンケートを通じ、「基礎的・汎用的能力」についての理解を深める。
- 6 キャリア教育(6)  
効果的なインターンシップの在り方について考察し、高校現場におけるインターンシップ実施、体験の現状について理解を深める。
- 7 労働を取り巻く環境(1)  
我が国のGDPや企業の経常利益の推移といった一般経済の動向、完全失業率と有効求人倍率の推移について学修する。
- 8 労働を取り巻く環境(2)  
我が国の労働情勢のうち、就業形態や男女別、年齢別といった労働者数の割合、実数の推移を掌握し、そこに抱える問題点について考察する。
- 9 労働を取り巻く環境(3)  
我が国の労働情勢のうち、新卒市場の動向について掌握し、フリーターや若年無業者の問題について考察する。
- 10 労働を取り巻く環境(4)  
我が国の労働情勢のうち、外国籍労働者の概観について考察し、高齢者の働き方と活躍のための環境整備について学修する。
- 11 職業指導と労働に関する法(1)  
労働基準法の概要と労働条件の原則、均等待遇及び男女同一賃金の原則等を学修する。
- 12 職業指導と労働に関する法(2)  
手当不払いの事例や労働契約期間及び有期労働契約、賃金の支払方法や法定労働時間の概要などを学修する。
- 13 職業指導と労働に関する法(3)  
時間外労働・休日労働に関する協定届「36（サブプロク）協定」を学修する中で、我が国が抱える諸問題について考察する。また、割増賃金や年次有給休暇について学修する。
- 14 職業指導と労働に関する法(4)  
男女雇用機会均等法、育児・介護休業法の概要について学修する。また、職業選択のミスマッチと新卒者の早期退職の良否について討議する。
- 15 試験、まとめ  
キャリア教育、労働を取り巻く環境、労働に関する法について試験を行い、解答例を示して全体的な概要説明をし、後期の講義内容を振り返る。